

Y's Men International
Y Service Clubs International

YMI WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members

YMIワールド
2018-2019 No.2
日本語版



次期国際会長の手紙「より良い明日のために今日を築く」、国際書記長から「埋み火の中から火を起こす：ワイズメン精神を燃え上がらせよう」、送別の辞「横浜から麗水（ヨス）まで 国際書記長としての8年余」、ゲストスピーチ「ボランティア活動の価値について」、ユースのために「STEPとYEEP—価値ある、人生を変える経験!」、ユースによる活動「インド：奉仕の心に動かされ、熱意で生き生きと」、YMIの事業「ASF-YMCA スタッフ研修を支援する」・「RBM パートナシップの世界的規模での進展への貢献」、ユースの発言「ユース議員がその経験を語る」、地域からの報告「エストニア：チャリティーコンサート」・「ノルウエー：123 メンバーのクラブ」・「クリスマスツリーの販売でコミュニティサービスを支援」・「台湾：いくつかの地域奉仕プロジェクト」・「タイ：グリーンファンドが炭素排出減少を助ける」・「ホンコン：学生によるタイへの奉仕の旅」・「カナダ：大義のためにペダルを踏む 「強い子ども」 プログラムの支援」・「ロシア：レイディーバード（テントウムシ）」以外にレイディーキャベツ（キャベツ婦人）がいる」、魂の真言「神様が私に向かって叫んだ」

読者の皆さまへ



私たちの運動においてリーダーの交代を目撃することはいつもあることではありません。西村隆夫(Nishi)は、2018年10月に、国際書記長の職を辞しました。しかしながら、彼は、年央会議までの間、新しい国際書記長のジョース・ヴァルギーゼに全てを引き継ぐまでチェンマイに残ります。このような中で、ふたりは、今号において、ひとり、送別の辞を、もうひとり、これからの希望について書いてくれました。私たちはNishiに対して、この8年間に亘るリーダーシップに感謝し、今後の移り変わりについて彼が書いているように、彼の将来の活動についての前途を祝します。今号の中心的テーマは、国際連合が定めた12月5日の国際ボランティアデーに因んで、「ボランティア活動」です。世界YMCA同盟会長のパトリシア・ペルトンが、彼女が若いとき、ボランティアとしてどのような良いことがあったか、ボランティア活動を通じてYMCAでどう育ってきたかの個人的なことを、私たちのリクエストに応じて書いてくれたことを嬉しく思います。

ボランティア活動の欠くことのできない要素は「与えること」です。時間を、エネルギーを、専門的な技術あるいは知識を、そしてお金を与えることです。このような文脈の中で、今号ではアリアナ・ハフントンの著書、「成功する」(Thrive)を採り上げました。彼女はこの本の序章の中で、「近年、私たちの社会において、成功とは、金銭、権力に絞られてきました…。成功と金銭と権力とは実質的に同義語になってきました。」と書いています。そのため、彼女は、「第3の基準」、権力と金銭を超える成功の尺度が必要であると議論しています。それは、何でしょうか？それは、健康であること、知恵、驚くこと、与えることの最低限4つを強めることから成る尺度、柱です。

ハフントンは、「第3の基準」無しでは私たちの人生は

表紙：フィリピンのラハイズメンズクラブの救急車。毎日24時間マニラの道路で地域奉仕活動を行っている。

ワイズメンインターショナル ワイサービスクラブズインターナショナル公式誌

国際本部:Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長:コシー・マシュエ

日本語版翻訳グループ:田中博之(委員長、東京多摩みなみ)、
青木一芳(千葉)、今城高之(横浜つづき)、利根川恵子(川越)、
太田勝人(東京世田谷)、倉田正昭(京都)、
谷川寛(大阪センテニアル)、谷本秀康(東広島)

印刷:(株)三浦印刷所 三浦克文(岡山)

「2本脚のスツール」のようであり、「しばらくはバランスを取っていても、最後には倒れてしまう」と論じています。哲学者、詩人、賢者は、何世紀にも亘って、与えることの美徳を賞賛してきました。しかしウィリアム・シェークスピアの「人生の意味とは、自身の才能を見つけることです。人生の目的とは、それを与えることです。」ほど良く言い表している言葉はないでしょう。

今号は、また、ユースに焦点を当てた3つの記事を掲載しています。私たちのSTEPとYEEPを担当している国際事業主任のリタ・ヘテラチッチはこれらのプログラムの詳細を説明し、この偉大な機会を活用することを奨めています。あとの2つはユースが行ったことについてです。ひとつはオーストラリアの個人が、もうひとつはインドのグループによってです。両方とも良い話で、これから刺激を受けていただければと思います。私たちの運動の将来は、今日のユースリーダーの手にあります。

各地域での行動の話をお送りいただいた方々に感謝申しあげます。どうぞこれからも記事をお送り続けてください。喜んで掲載させていただきます。

ペンを置く前に…

良いクリスマスと楽しい新年を!

コシー・マシュエ

私の本棚から

「成功する」:成功を定義直し、より幸せな人生を造るための第3の基準」アリアナ・ハフントン

「成功する」において、ハフントン・ポストの共同創設者で編集長であり、世界で最も影響力のある女性のひとりであるアリアナ・ハフントンは、今日の世界において、成功とは何を意味するかを再定義することを熱烈に説いています。

彼女は、私たちが金銭と権力を追い求めることについて2本脚のスツールに例えています。しばらくはバランスを取っていても、遅かれ早かれ倒れてしまうでしょう。私たちには3本目の脚、健康的で生産的で意義深い人生のための成功を定義する、第3の基準が必要です。この、深く個人的な思いが込められた本の中で、アリアナは率直に、彼女の出世とふたりの娘の要求についての時間のやり繰り、優先順位付けへの挑戦について語っています。

瞑想、思慮深さ、テクノロジーの一時的排除、「与えること」が、深く人を変化させる効果があるという心理学、スポーツ、睡眠、生理学における最新の革新的な研究と科学的な発見を引用しながら、アリアナは、私たちの文化、考え方、職場そして私たちの人生において革命を起こす道を示しています。(アマゾンでの広告文)





より良い明日のために今日を築く



ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)の
クラブメンバーの皆さまへ

あなたとあなたのクラブメンバーの皆さまに、大いなる喜びをもってこのご挨拶をお送りいたします。YMIにとって今は、現在の状況や課題に対応し、再編成する興味深いときです。私たちの組織は、多くの変化に直面しており、また、国レベル、地球レベルの移り変わりにおける変化に対応する努力を行っています。YMIに加わることはエキサイティングなことであり、YMIが最先端であり続けるために、素晴らしい人たちと会い、集まりに呼ぶことを続けていくことを望んでいます。

「より良い明日のために今日を築く」において、私は、真剣な奉仕と暖かい友情が前面に押し出しされ、そしてキリスト教の倫理によって形作られた、人類共通の良き事のために共に働くことを勇気づけられているYMIの使命をさらに推進していくことができると確信しています。今ベストを尽くし、明日のための準備をしましょう。私は、皆の利益のために、舞台裏で静かに、着実に働き続けている多くの人々に勇気づけられています。また、私たちの前に地ならしを行い、苦勞しながら進み、私たちが感謝してその上に築く貴重な財産を残してくれたYMIのリーダーとメンバーに感謝いたします。どうぞ、今日の状況と将来に向けての今の期待について誇りに思ってください。

私たちのモットーである「強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う」は、すべての物事には両面があ

るということと呼び起こします。YMIは、会員に対して幅広い経験と利益を提供します。しかし、大きな満足が他者への奉仕、「サーバント・リーダーシップ」によって得られるということは、驚くべきことです。

間もなくYMIは、2022年に創立100周年を祝うときを迎えます。過去の確固たる成果を振り返り、どのようにこの遺産を、将来の奉仕とリーダーシップによって、より豊かに、より広がったものにするかを考えてみましょう。

YMIにあなたがどう変化をもたらすことをできるかを考えることをお奨めします。どうぞYMIとの繋がりを真剣に思ってください。YMIを強いものに、楽しめるものにそして意義深いものにしましょう!

祝福と敬意を込めて

ジェニファー・ジョーンズ
2018/19年度次期国際会長

埋み火の中から火を起こす ワイズメン精神を燃え上がらせよう



私は、国際書記長という私の新しい役目を、世界中のワイズメン指導者とYMCAの同志の皆さま、そして国際本部の職員たちと結びつきつ始めました。私の最初の目標は、現在の会員や会員候補の多様な人々がワイズメンの運動をどう

認知しているのかを理解することでした。皆さまの夢や将来への抱負を知りたいと思いました。

最近の数か月、この努力を重ねることにより、私は、ワイズメンが直面している中心的課題のいくつかを身近に感じるようになりました。私たちワイズの96年以上の豊かな歴史とYMCAへの奉仕の遺産に心動かされる一方、私たちの良い働きと国際協働にもかかわらず、私たち国際協会は陰に隠れた存在になり、スケールも世界的視野も、一致した行動も欠いていることに気付かされました。しかし、この暗い面に失望するより、私は明るい面を見ようと思います。ワイズメン精神のかがり火は、今は湿って、現状という埋み火の中でくすぶっていても、ちょっとしたかき起こしによって再び明るく燃え上がるはずだからです。私たちクラブメンバーの信念と向上心がワイズ運動を建て直し、新しい高みへと拍車がかかることでしょう。

ワイズメン精神は、私たちの最大の力です。この力によって私たちは、20世紀に人類を襲ったふたつの世界大戦、自然災害、その他の災難を乗り越ってきました。最も困難な時期にも、私たちは「全人類のためにより良き世界を築く」というワイズの使命を誠実に保ってきました。私たちの「与え、仕え、気遣う」という共通の原理が、今も2万5千人強のワイズメンを独特の仲間意識をもって結び付けています。私たちは、助けを求める社会に与え、若者に力をつけようとするYMCAに仕え、地球とそこに生きるものすべてを気遣います。

この精神を、強力な世界大のワイズ自己確認へと昇華し、私たちの運動が正しく認められ、尊重されるようにすることが必要です。その認識と

ワイズメン精神のかがり火は、
今は湿って、現状という埋み火の
中でくすぶっていても、
ちょっとしたかき起こしによって
再び明るく燃え上がるはずだ。

尊重があつてはじめて、私たちは、発展し盛んになることでしょう。私たちは、自分たちがしていることをお互いや世間に向かって遠慮なく語るべきところなのに、極端に控えめに過ごしてきたと感じます。さあ皆さん、私たちがしている良い働きをお互い同士、また一般の人たちと分かち合うことを当り前のように実践しようではありませんか。自由に使える通信手段を活用して。

ワイズとYMCAとの歴史的関係を顧みれば、私たちワイズの自己確認を確立し世間に伝えるには、YMCAとの協働を再燃させなければなりません。両者の互恵的で密接な関係を直視しましょう。ワイズメンは独立した組織ではありますが、加盟クラブの最初に掲げる目的は、「YMCAのためのサービスクラブとして活動する」です。ところが、そのはずなのに、ところによってはワイズとYMCAがお互いを忘れ

たような状態に陥っているように見えます。これに注意を返し、正すことが必要です。

私たちのビジョンは、2022年までに100か国に5万人のワイズメンを確保し、世界中のYMCAと、助けの要る地域社会とに奉仕することを通じて、より良い世界を築くために力を合わせることです。YMCAとの関係を推進するための、段階的で到達可能な目標をカレンダーに書き込むことによって、皆の力を結集して、このビジョンを現実のものにしていきましょう。このようにして、私たちは、メンバーの心を再び燃え立たせ、2022年に向けての宣言を実行する力を与え、世界にワイズの存在だけでなくその一体性を知らしめ、その結果、私たちの運動組織の豊かな未来を約束することになるでしょう。

国際書記長 ジョース



国際本部にて。前列左から、西村隆夫直前国際書記長、ジョース・ヴァルギーズ国際書記長、来訪の世界YMCA同盟直前総主事ヨハン・ヴィルヘルム・エルヴィーク牧師とイングン夫妻。後列左からスタッフのトレイシー、ジェームズ、アミン

横浜から麗水(ヨス)まで 国際書記長としての8年余

友人の皆さま

皆様がこの YMI ワールドをお読みになるのは、クリスマスを祝い、あるいは新年を迎えておいでになるころでしょう。クリスマスと新年のご挨拶を申し上げます。

私と妻久美子にとって、時はまさに矢のように飛び去りました。私たちは、2010年の横浜での国際大会の終了直後、ジュネーブに着任しました。同地のワイズ国際本部(IHQ=インターナショナル・ヘッドクォーターズ)に約6年間駐在したのち、タイ・チェンマイ YMCA 内に設置された IHQ のサテライト・オフィス(SLO)に赴任しました。

国際書記長としての8年間、私は、常に、献身的な指導者たち、特に国際執行役員、国際議員、エリア会長や国際事業主任、それに IHQ の激務をこなすスタッフチームと一緒に仕事するという幸いに恵まれてきました。これら献身的な指導者たちの支援を受けて実行された重要な変革をいくつか記します。

1. 2015年以後、国際議員の定数を従来の21名から15名(うち2名は青年会員)に減員したこと
2. IHQ の規模を縮小し、2016年チェンマイに SLO を開設したこと
3. 国際の会計で前年度出た剰余金を用いて特別エリア支援基金(SAS= ストロング・エリア・サポート)を創設し、これをエリア役員による、より強力なエリアの運営に資するために配分すること

これらの変革は、メンバー数の減少傾向とそれに伴う収入減に対応して、ワイズの運動と IHQ の機能が持続されるためになされました。私たちはワイズ運動を広げる道を求め、各地に、また国境を超えて、より多くのクラブを創るよう努めてきました。今や私たちは、新しい指導者たちや新書記長ジョースと共に

クラブ拡張を進めるために、YMCA と密接に協働する機会を増やそうとしています。

私たち夫婦には、この8年半の間に、色々な国に大勢の友人ができました。それがこの職務を通じて得た最良の宝物だったと思います。韓国・麗水(ヨス)での国際大会 IC18 は私が国際書記長として参加した最後の大会でした。たいへん忘れがたい大会で、参加者は3千人以上、意義ある記念事業やイベント、真剣な討議に楽しい出し物。大会実行委員長ムン・サン・ボン氏と委員の皆さんに感謝を捧げます。そのうえ、私はこの大会で、私の後継者を紹介する機会を得ました。

以上の次第で、私にとって横浜大会 IC10 が出発点に、ヨス大会 IC18 が到達点になりました。ヨス大会でのもう一つの貴重な機会は、藤井寛敏元国際会長のバランタイン賞の受賞に立ち会ったことですが、まさに私が就任した横浜大会の時(書記長としての初年度)の国際会長が藤井さん(任期2010-2011)だったのです。

多くの方から私の退任後の計画は何かと尋ねられました。率直なところ、しばらくゆっくり過ごし、それから神様のご計画が何かを聴いてみようと思います。最終的にどこかの地に落ち着こうとも、その地のクラブのメンバーになることは、ワイズ運動の最高レベルに戻って来たことになりますので、私はワイズマンとしてその地の YMCA に奉仕を続けようと考えています。皆様の友情とご指導に衷心から感謝を申し上げます。神の祝福を祈ります。

「事の終わりは始めにまさる。
気位が高いよりも気が長いのがよい。」
(旧約聖書コヘレトの言葉 7:8)

西村隆夫



横浜 IC10 で妻久美子と



ヨス IC18 でムン・サン・ボン国際会長[中央]、
ジョース次期書記長[左]と

ボランティア活動の価値について

世界 YMCA 同盟パトリシア・パルトン会長による私的考察

ワイズ運動に携わるすべての友人たちへ、

心を込めてお便りをさし上げます。皆さまに対して、YMCA におけるボランティア活動の価値についての一文を寄せるようにとのご依頼をいただいていた。私は、このご依頼にお応えするつもりではありますが、この機会を、今日の YMCA とワイズとの間に存在する活気に満ちたパートナーシップについて認識することから始めない訳にはまいりません。

世界 YMCA 大会の際、私は、新たに選出された皆さんの次期国際会長ジェニファー・ジョーンズさんと、喜びの内にお目にかかることができましたし、勿論、新任の国際書記長ジョース・ヴァルギーズさんをよく存じ上げており、彼の功績を高く評価するものです。私たち二つの偉大な組織間の密接な友情関係は、驚くべき様々なことを共に達成してまいりました。限りはありません！私たちは、ユースエンパワメントをこれまで以上に探索し進展させることができます。進展中の行程をご一緒に辿るのを楽しみにしています。

YMCA におけるボランティアの素晴らしい役割

私は、私自身のボランティア活動のストーリーを是非皆様と共有し、それを通じて、私がボランティア活動を通じて経験した学びと恩恵にハイライトを当ててみたいと思います。

私は、YMCA の前、主にカナダの YWCA でボランティア活動

を開始しました。それは私が、YWCA が存在しないカナダの北部へ移転した後のことで、以降、YMCA が私のボランティア活動の中心となりました。これは私にとって、正に幸いな関係の始まりであり、以降、これは私の子どもたち、更には、子どもたちの子どもたちに、

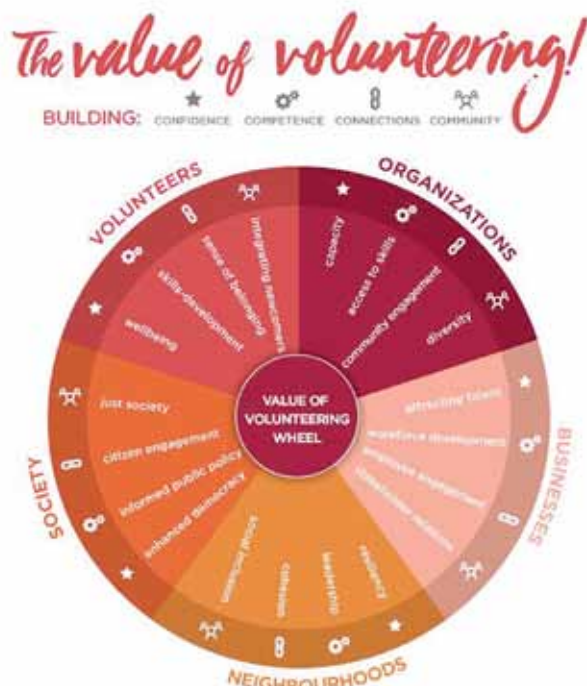
それぞれの地域の YMCA で受け継がれています。YWCA、YMCA 双方とも、影響力をより広げるためには職員だけでは限界があり、ボランティアの参加、支援を大変歓迎しています。彼らは、ボランティアが活動のバックボーンであることを理解しています。YMCA に腕を広げて歓迎され、「ボランティア活動のために来てくれてありがとう。あなた方を心より歓迎します」と言われることが何よりの力づけになります。私は、これ以上に歓迎されることはないと感じ、その結果、できるだけ力を発揮してボランティア活動を行いたいと思うようになりました。



YMCA に腕を広げて歓迎され、「ボランティア活動のために来てくれてありがとう。あなた方を心より歓迎します」と言われることが何よりの力づけになります。

次に、私は、ボランティア活動に参加することにより YMCA の歴史を学びました。更に、活動は、その歴史の重要性と、繰り返し歴史を語り、ボランティア活動に対する献身を分かち合うことで理解されます。歴史の始めに戻って、ジョージ・ウィリアムズと彼の 12 人の仲間たち全てがボランティア活動者であったということを知ることには大いなる動機付けです。これら極めて若い者たちは、偉大なことを実践しました。そしてそのことが、ボランティア活動者が YMCA に何をもたらすことができるか、彼らが、何ができるかという流れを形作りました。私は、これはボランティア活動者が、自分たちの潜在的影響力が如何に大きなものかを知る重要な動機となることに気がきました。YMCA は、ボランティア活動者や彼らが提供してくれるもの全てを受け入れます。

私が、地域の YMCA に関わりを持つようになった際、まず、この YMCA が地域社会全体に何をもたらしているかを見極める必要がありました。私は、地域が恐ろしい森林火災を経験した際、YMCA は、地域社会へのボランティア活動の中心にあり、強く必要とされる時にそれを一つにまとめたことを鮮明に目撃しました。私は、多くの地域社会の中で YMCA が同じように行っているこ





とを知っています。

緊急かつ危機的な時こそ私たちが地域社会から大いに必要とされますが、一方、私は、毎日、毎週、更には多くの場合、毎年にわたり、静かに、謙虚に仕事に努めるボランティア活動者たちのことを決して忘れません。これらの人々は、真のチャンピオンであり、それらの方々が他の人々を助ける業にたいして私は機会あるごとに感謝するよう心がけています。彼らは、私たち全てにとって、何と偉大なお手本でしょうか。地域の YMCA は、個々人の貢献を認識し、その活動を表彰することを日頃から行っています。

より大きな役割

私は、また、自分が所属するカナダ YMCA の議長として、また、世界 YMCA 同盟の執行委員会においてボランティアとしての役割を果たしてきました。その環境において、単に与える機会のみならず受け取る機会があります。私にとって際立った一つの経験は、与えている時に、考えたことも期待したこともない賜物をいただいているという、ボランティアの恩恵についての伝統的な例です。

ボランティア活動の結果、私は、多くのすばらしい人々と交流し、自分自身のことを学び、変化を作り出すことに貢献するなど、多くのことを得ることができました。

私は、「世界 YMCA 安全空間学習グループ」のメンバーであったことを喜んでいますが。このチームは、如何にしてより包括的になるか、また、YMCA 内部に安全空間を創設する機会を持つことができるかなど、難解な課題に取り組むために世界各地から集まったボランティアとスタッフにより構成されていました。これは、真の学びの実例で、発見の過程に伴ってくるものでした。そこで、私は時間と努力を小規模なグループのために役立てることによって、私たちは、世界同盟が最終的に享受する運動の飛躍的前進を達成することができました。この、ボランティアのグループは、彼ら個々が持つ技術や経験をグループに提供し、私たちの多様性を通じて、結果として、より大きくより良い物を作り出しました。

今日、私は、世界 YMCA 同盟の新会長として、ガバナンスに大きく焦点を置き、執行委員会を通じて成功事例が持ち込まれることを追求します。ガバナンスリーダーとしてのボランティアの役割は、私たちは正しいことを行っており、それが良好に行われていることを確かなものにする、重要な別のレベルでの監視です。ボランティアの役割とスタッフの役割の均衡を理解すること、スタッフとの協調は、このことを正しく行う鍵です。世界 YMCA 同盟において、多くのことが民主的な責任に導かれて行われていますが、未だ広範囲にわたり改善の可能性があります。

ボランティア活動の結果、私は、多くのすばらしい人々と交流し、自分自身のことを学び、変化を作り出すことに貢献するなど、多くのことを得ることができました。私は、スタッフとの間に、また、他の組織との間に素晴らしい協力関係を築いて来ました。私は、自身

国際ボランティア・デー

1985 年に国連が推薦した「国際ボランティア・デー」が 12 月 5 日に祝われました。この日は、ボランティアおよび彼らが所属する組織の地域や国内や国際的貢献に対し称賛が浴びせられる機会を提供します。

の役割およびボランティア活動の責任を極めて真摯にとらえています。実施されねばならない数多くの事柄が目前にあり、多くの仕事を担っていかねばなりません。私たちには受託者の領域に戦略的、創造的な管理についてのガバナンスを持ち込む必要があります。

会長として奉職するかあるいは単に地域の YMCA でボランティア活動をするかに関わらず、それぞれが、持てる時間と才能を積極的にボランティア活動にささげることをお勧めします。その道のりは報いられ、経験は人生を変えてくれます。

人生の本質は何でしょう？ 他人に奉仕し、良きことを行う。

2,300 年以上も前のギリシャの哲学者アリストテレスによる、この世で最も古いボランティアについての引用は、社会への恩返しは決して新しい概念ではないということを立証しています。

多くの人々は、私たちのように旅行する余裕のある者たちに比べ恵まれておらず、社会事業への資金提供が容赦なく削減される今日、ボランティア活動は益々その重要性が増えています。

武力紛争から逃れる移民、教育を必要とする悲惨な子供や家を必要としているホームレスまで、ボランティアが状況を変化させる手段が不足することはありません。ボランティア活動に関して最も偉大なことは、個々の受益者や、地域社会、ボランティア自身に提供される恩恵かも知れません。

引用集

「貴方がどこへ行こうとも、貴方を必要とする人を見つけることができます。たとえ、それが如何に小さいことであれ、支払われなくとも、行うことが名誉であるような何かを行いなさい。忘れてはならないのは、この世はあなた一人が生きていくためのものではないということです。」

アルベルト・シュヴァイツァー

「もし、より良く、より安全な世界を作ろうとする私たちの希望が、単なる望みを越えようとするなら、これまでにならぬほどのボランティアの関わりを必要とするであろう。」

コフィ・アナン

「人生へのより永続的で緊急な問いとは、他の人のためにあなたが何をしているかです。」

マーティン・ルーサー・キング・ジュニア

「人生の意味とは、自身の才能を見つけることです。人生の目的とは、それを与えることです。」

ウィリアム・シェークスピア

STEP と YEEP—価値ある、人生を変える経験!

元地域会長 リタ・ヘテラチッチ・国際 STEP & YEEP 事業主任

STEP(Short Term Youth Exchange Program: ユース海外短期交流プログラム)は、18 歳から 25 歳までのワイズの子弟または孫であるワイズユースのための交流事業です。派遣生は 3～11 週間、他国の、あるいは国内の他の地区のクラブメンバーの家族と過ごすことができます。この事業は、YEEP の長期間の交流には参加できないあるいは希望しない人に、海外での体験をする機会を提供しようという願いから生まれました。

YEEP と異なり、STEP は他国での学校に通学する必要はありません。代わりに、派遣生本人やホストファミリー、クラブ、コミュニティが良しとする活動に参加することに重点が置かれています。例としては、クラブの募金活動、YMCA のキャンプや断食の時(Time of Fast:TOF)事業への参加が挙げられます。

目標と可能性

STEP と YEEP は、YMI(ワイズメンズクラブ国際協会)の将来のリーダーに、より良い世界を作るために努力する、異文化間の理解を深める、国際的な体験の場を提供するなど、共通の目標があります。STEP には多くの利点がありますが、そのいくつかは以下の通りです。

- ・異なった文化、習慣、言語を体験する
- ・国際的なコミュニティの楽しさと国家間の平和的な関係の喜びを体験する
- ・YMI の世界的な活動について知る
- ・参加者自身の自信、責任、成熟さを伸長する
- ・ホストクラブやコミュニティに国際的な雰囲気をもたらす
- ・国内であっても他の地域から自国を見て、自分自身の国についてより多くを学ぶ(国内で STEP に参加している場合)

STEP は、無限の可能性を秘めた事業です。クラブは、この国際的な経験と成長のための素晴らしい機会があることを、学生に十分に周知することが重要です。この事業は、学生ばかりでなく、ホストファミリーやコミュニティ、ひいてはワイズ運動全体の利益につながります。というのも、この事業がワイズメンと YMCA の究極の目的である世界的な友情を達成する一助となっているからです。若い人々にこのような機会を提供することにより、私たちは、次世代が我々の運動に参加し喜びを得ることを確実にすることができるのです。

応募者は、自分の学校生活に支障が無いように、学校の休暇中を選んでこの事業に参加していますが、STEP は休暇ではありません。YEEP よりも期間が短いので、コミュニケーションが図れるよう、いつも可能とは限りませんが、交流が応募者の言語と同じ言語で行われることがベストです。また学生が学校

や家庭で他の言語を学んだことがあり、その言語が上達するような地域に派遣されることを希望するかもしれません。この事業の成功は、すべての参加者が新しく、革新的な考えに心を開くことにかかっています。関係者すべてがこの事業の体験から学べるように協力することが、クラブ、ホストファミリーそして学生に求められます。



クラブメンバーは、YMI の活動について学べる機会をできる限り応募者に提供するとともに、ホストファミリーは暖かい家庭環境を提供します。

この事業は、学生ばかりでなく、ホストファミリーやコミュニティ、ひいてはワイズ運動全体の利益につながります。というのも、この事業がワイズメンと YMCA の究極の目的である世界的な友情を達成する一助となっているからです。

目標は同じ、ただ長期間

YEEP も YMI の事業で、ワイズ・メンバーの子弟や孫、あるいは少なくとも 3 年以上 YMCA のユース活動に経験のある者に、国際交流の機会を提供します。参加者は、ホストファミリーの家に滞在し、地元の学校あるいは同様の施設に通い、ワイズの活動やミーティングに参加しつつ、ホストファミリーやコミュニティの日常生活を共有します。

STEP も YEEP も応募および参加は無料です。しかし、往復の航空運賃やお小遣いは応募者の保護者が負担するべきものです。

すべての区は、かかる経費が少ないので、同じ区内での STEP または YEEP 交流事業も実施するよう勧められるべきです。

興味がありますか? 区の担当事業主任に連絡をして応募してください! 事業終了後も永遠の友情を保てる素晴らしいワイズの家族をご紹介しますように最善を尽くします。

インド:奉仕の心に動かされ、熱意で生き生きと

インド・中西部区の区ユース・キャンプに以前参加した若者の何人かが、2017 年末に自分たちで計画した同窓会の後に、イミューブルユースワイズサービスクラブを設立しました。現在 25 名のメンバーで、様々な活動を行っている活発なクラブとなっています。

最初の活動は、ケララ州北部のコシコデにある 2 つの部族のセトルメントの住民とクリスマス进行うことでした。セトルメントにおける殺伐とした光景は、すべてのメンバーにとってショッキングなものでした。彼らは、1日中セトルメントで歌い、踊り、クリスマス・ケーキを食べたり、住民が必要としている食料品を提供したりして過ごしました。このお祝いの時の喜びと感動を住民に味わわせることができた満足感で、意気が高揚したことが収穫でした。



次の行動は、学費が払えない、優秀な大学院生の授業料と結婚費用を出せるようにすることでした。続いて貧困地区にある小学校を訪問しました。この学校の児童は 255 名で、読み書き、そろばんのような基礎的な知識を学んでいます。しかし、この小学校は、校舎が破損していて緊急な対応が必要で、閉鎖される寸前の状態でした。そこで校舎を見違えるようにし、子どもたちが楽しくられるように、メンバー全員が心身ともに「腕まくり」をして、刷毛とペンキで作業をしました。彼らは、総額で 3 万ルピー（約 425 米ドル）を集め、修理のための材料や子どもたちの教材を購入しました。

環境問題への関心も彼らの行動計画の中にあります。6 月の「環境デー」の一環として、コチ海岸沖のカダマックディ島にメンバーが集まりました。島民の協力も得て、50 本の苗木を植え、今後、その世話も継続します。



隣接するカルナタカ州にあるゴカルナは寺院と砂浜の海岸で有名ですが、そこに自然と文化の探索に行ったことが起爆剤となりました。自然の中のトレッキングや町の中の巡礼場所への訪問は、ひと味違った、刺激的な体験でした。また、メンバーはゴカルナの海岸の主な場所を清掃したり、その地方の文化についてより多くを知るために地元の人々と懇談したりする時間もとれました。



2018 年 8 月にケララ州を襲った今世紀最悪の水害の時には、ワイズユースは、ボランティアとして迅速に行動を起こし、ケララ州の随所で人や動物を救助しました。イミューブルクラブのメンバーも救援・救出活動に 100%参加し、危機的な状況に対応しました。現在すべてのメンバーがケララ州復興ミッションという州政府のボランティアとして登録しています。

名前が示すように、彼らは揺るぎなく、動じることなく、他人を助けようとする情熱に溢れた熱意で生き生きとしています。

リア・ウイルソン(ワイズユースメンバー)



(左列中段) クラブメンバーと小部落の住民

(左列下段) 作業中

(右列上段) 少年に人生の要となるものを渡す - 読み、書きする機会

(右列下段) 村人との貴重な時間

ASF-YMCA スタッフ研修を支援する

アレキサンダー奨学基金 (Alexander Scholarship Fund: ASF) は、ワイズメンズクラブ国際協会 (YMI) の創立者であるポール・ウィリアム・アレキサンダー判事の名前をとって、1954 年アメリカ・ミシガン州ランシングで開催された国際大会において創設されました。ワイズメンは、ポール判事の肖像画を著名な画家に描いてもらおうと資金を集めました。ところがポール判事はこれを無駄だと言い、もっと安くできる、有名な写真家による写真を撮るなら座ってモデルになろうと賛成しました。905 米ドルの余剰金が出たので、YMCA 主事の研修費用にあてるために、信託財産に委ねられました。肖像写真は、ランシングの国際大会の時に贈呈され、信託に関する同意書も交わされ、この基金が創設されました。

現在、YMI の各地域が、地域内の YMCA スタッフまたは地域内の YMCA スタッフ候補者の研修のために基金への献金を集めています。献金の目標額は、通常、クラブ、部、区および地域のそれぞれのレベルで決められ、国際会議で承認されます。続いて、メンバー、リーダー、特に各レベルの ASF 担当事業主任は、どのように目標を達成するかを計画します。多くの区や地域では、最大の結果を得るために、地域 ASF 担当事業主任が、区や地域のワイズメンおよびローカル YMCA と緊密に連携して、総力を挙げて達成する計画を立てます。ASF の規則に沿って、90% がローカルレベルの YMCA スタッフの研修に用いられ、10% がジュネーブの国際本部に送られ、分配されます。

基金の活用方法は様々です。ある地域では、学校に正規に入学したり、定時制に入ったり、通信教育を受けたりして 1 ~ 4 年間で正式な資格を取るために活用されています。他の場合では、YMCA の職務に関連する知識を強化するために、短期の資格には結びつかないコースのために使われています。またセミナー、会議、コンベンション、リー

ダーシップ・トレーニングなど、受益者の職能開発に有益と考えられる活動に使う YMCA もあります。

国際本部に集められた 10% の献金の分配については、国際役員と連携して、国際選考委員会が決定します。分配金は、国または地域の YMCA 運動に支給されますが、ASF 基金の補助金を希望する YMCA は申請書を出さなければなりません。

ASF 基金は、ワイズと YMCA の協力とパートナーシップを築くのに貢献してきました。ASF は、YMCA スタッフに、YMCA のよりよい理解、

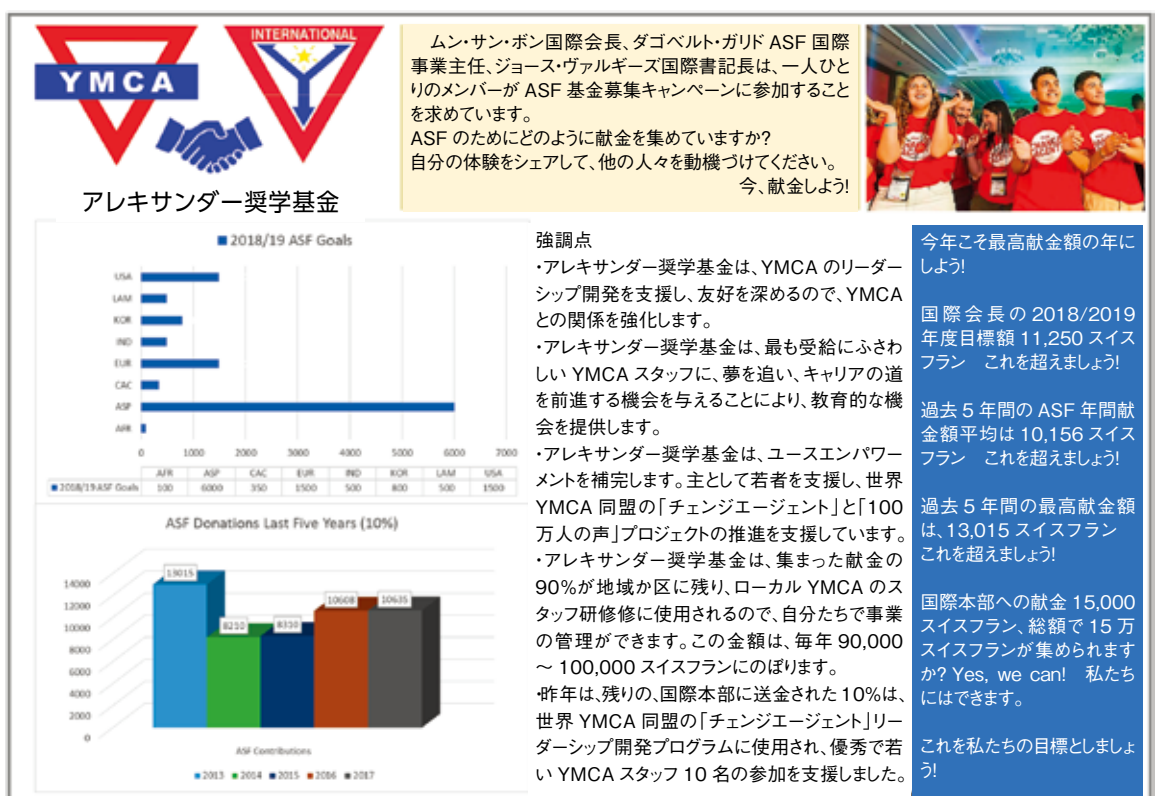
YMCA の社会における役割、職業開発、職場におけるより効率的な行動などについて研修をすることを支援します。多くの地域で、お返しに YMCA スタッフは、ワイズに対して、いろいろな支援をしています。例えば、新しいメンバーの勧誘、新しいクラブの設立、ミーティングやワイズの他の活動のための部屋の提供、メンバーの維持、地域奉仕事業の協働実施などです。

現在行われている ASF ガイドライン改定は、ASF の目的に沿って、YMCA を支援するために、宣伝、資金集め、基金の分配を、YMCA とワイズメンが協働してできるようにすることを目的としています。ASF 基金の受領者のデータバンク、基金の活用方法や有効性を報告する統一したフォームなどは、ワイズメンと YMCA が奉仕のパートナーとして、より良く ASF 事業を理解することを求めるツールとして不可欠です。

2018 年 11 月は、ASF 献金の強調月間と指定されています。2018-19 年度の国際会長の目標は 11,250 スイスフランです。2013 年からの年間平均献金額は 10,156 スイスフランで、最高額は 2013 年の 13,015 スイスフランでした。

さて、ここでの質問は、今までの数字を打ち破り、今年は、全体で 150,000 スイスフランを集め、国際本部に 15,000 スイスフランの献金ができるでしょうか? はい、私たちにはできる、Yes, we can! です。

編集者注: この記事の大部分は、元国際会長のベンソン・ワブレが ASF 国際事業主任だった時に書かれたもので、当初 2003 年 6 月号の「YMCA ワールド」に掲載され、後に Y's Men's World (2003-2004 年度第 1 号) に再度掲載されました。



RBM パートナーシップの世界的規模での進展への貢献

RBM パートナーシップは、マラリアをこれ以上拡大させない強い行動を励ます世界的な取り組みの一環として 1988 年に締結されました。その結果、過去 20 年間でマラリアに対する地球全体の重荷は、著しく軽減されました。マラリア対策の拡大を通して、600 万人以上の死者を減らしてきたのです。それは主にサハラ砂漠以南の地域に住む 4 歳以下の子供の間で減ったことでした。

MDG というミレニアム計画 (2015 年までにマラリア罹患者を減らすことに焦点を当ててきた計画) にてこれ以上罹患患者数を増やさず減らしていくことを目標としたものでした。

RBM 運動はこの目標達成に重要な貢献をしており、締結したパートナー間や諸資源を準備してきた方々や実践行動隊の皆さんの間でコンセンサスを深めることに役立ってきました。

しかしながら、マラリアは引き続き挑戦すべき病気の中で大きな比重を占めています。2015 年の時点で 2 億人以上の人が罹患していて、世界中で 40 万人以上がそれにより亡くなっているのです。まだまだ 97 か国と地域で 30 億人以上が罹患する危険に直面しています。特にサハラ砂漠以南の所得の低い国々や地域での罹患の危険が大きいのです。

MDG は、国連の定めた持続可能な発展計画 (SDGs) に引き継がれ、新しいアプローチが紹介されました。

2015 年 5 月、各国は WHO が定めた「マラリア 2016-2030 への戦略」の中で、マラリアの拡大を防ぎかつ減らしていくためのロードマップを示しています。この戦略は、RBM の目標プランにも沿っていて、2030 年までにマラリアを撲滅すべく必要な行動と投資を盛り込んだ内容となっています。同時に、戦略を示した箇所では世界中でマラリアに罹る人を 90% も減らそうという内容を盛り込んでいます。

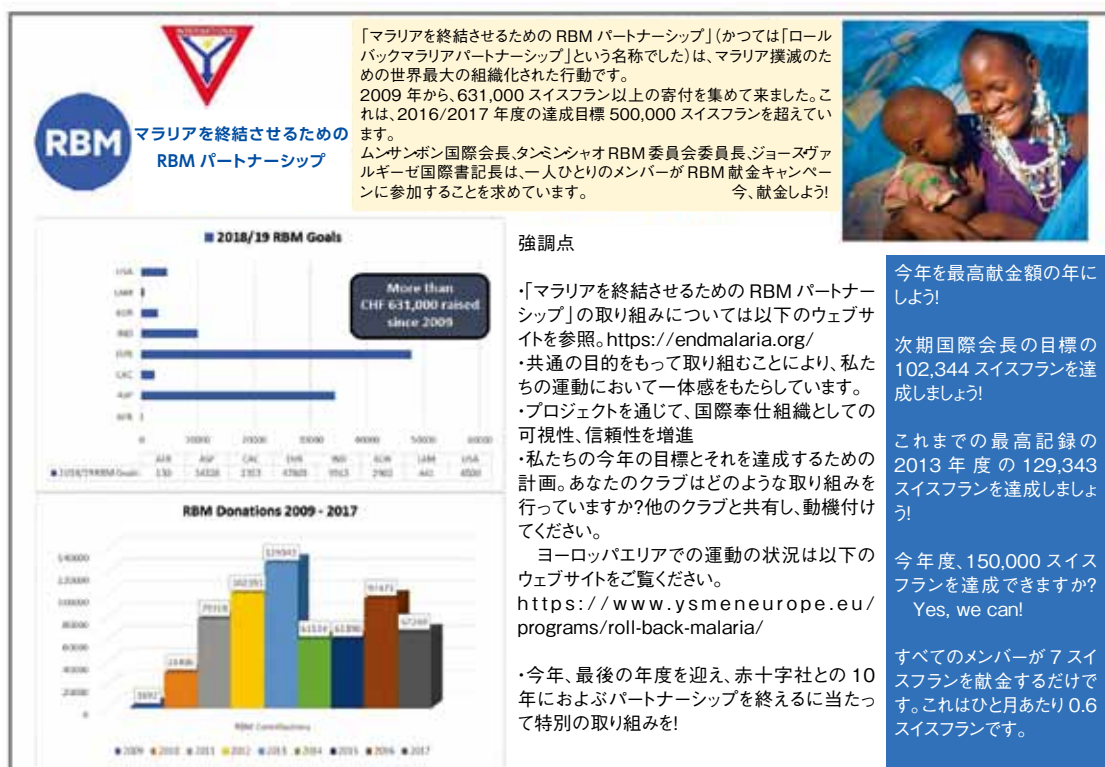
これらの目標を達成していくために世界中で集めるファンドを現在のレベルの 3 倍にする必要があります。新しい枠組みでは、主要なステイクホルダーに参加してもらい、世界的に行動し、資金面でも支えることが必要です。

一方、WHO は、引き続きマラリア撲滅に向

かって重要な役割を担当し、世界規模での方針と目標、行動規範、等々を作成し、世界中で浮かび上がってきた課題とその対策、そして参加する各国に対して技術上のサポートを行うこととなっています。RBM パートナーとは、WHO やその他国連の各機関一よく知られている UNDP、UNICEF など、そして世界銀行、財団、民間の機関、非政府組織、研究機関、学術機関、開発パートナーなどです。

RBM パートナーシップとのパートナーおよびマラリア撲滅同盟のメンバーとして、私たちは世界各地にいる会員から献金を集め、主要なパートナーである国際赤十字赤新月社連盟 (IFRC) を支援しています。IFRC が取り組んでいるマラリア撲滅運動は (マラリア以外の一般的な病気と闘う団体と共にを行っています) 社会的な行動となっていて、悪い慣習を改めさせたり、各家庭に LLIN を供給して支援したり、「Hang Up」とか「Keep Up」と書いたものを掲げて活動しています。また、各国の保健担当閣僚が定めた目標達成にも支援の手を差し伸べています。

以下の図表をご覧ください。国際役員が定めた目標です。私たちワイズメンは 2013 年にスイスフランで 129,343 フランを集めました。私たちに尋ねられていることは、本年度 150,000 フランを達成できるかです。答えは、「Yes, we can!」です。ひとりひとりの 7 フランの献金によってこの目標は達成可能なのです!



ユース議員がその経験を語る

アデレードワイズメンズクラブのラッセル・ジョーンズに励まされ、若いザイナブ・ジミーが 2018 年、南オーストラリアでの YMCA 青年会議に参加しました。会議は州議会下院議場で開催されました。以下は、彼女のユニークな経験を YMI のためにラッセル・ジョーンズの示唆のもとにまとめられた振り返りです。

私自身について少し:

私は、ザイナブ・ジミーです。私は、情熱的な若い女性だと思います。私は現在 18 歳で、アデレード大学で、法律学と社会学の 2 つの学位を取得するよう勉強しています。出来れば 10 年以内に国連の女性に関わる組織で働く事が出来たら良いと思っています。私は 11 歳の頃から、人権を擁護し、少数派や、声なき声を守る事を夢に見てきました。私は、いつも人を助けたいと思っていました。もっと言えば、私は、私の住んでいる地域と私の将来を変化させる触媒になりたいと考えています。私はエリトリア系のオーストラリア国民で、イスラム教徒であることを誇りとしています。私は時として、私の出自について困難や反発を覚える事がありますが、私は、いつも言外の意味合いや、固定観念を無視する事で、将来に希望を持ち、楽観的に考えています。私の趣味には、私の家族や、友達と仲良くする事や、読書、散歩それと時間がある時にネットサーフィンする事が含まれます。

どうして青年議会に関わるようになったのでしょうか?

今年、私は、ソーシャルメディアに、いくつかの青年議会プログラム (YP) の告知が掲出されているのに気が付きました。そして YP は私の興味を引きました。最初は、大学での単位の習得に多くの時間を割かざるを得なかったのですが、YP の告知に気づいた友人が、私にやってみてはと、その情報を送ってくれました。私は、YP プログラムを研究してみようと決めました。私には、私が発見した事、すべての事が満足のいくものでした。私は、私の友人の一人がこのプログラムに参加していた事に気が付きました。彼女と話し合い、自分自身でこのプログラムに参加しましたが、このプログラムへの参加が、大学での予定を混乱させない様に決めました。そこで、私は、プログラムに参加しようと決め、2018 年の青年会議への参加を申し込みました。

私が受けたトレーニング:

最初のチームメンバーとの、YP の打ち合わせ中、参加者にこのプログラムがどのように有意義だったのか、なぜこのプログラムをととても楽しんだのかを聞きました。週末のトレーニングの前に、私はプログラムへの参加準備のために、出来るだけ沢山勉強する事を切望していました。そして週末のトレーニングの日が来ました。トレーニングは毎日、朝午前 9 時から午後 5 時まででした。トレーニング中、YP のタスクフォースメンバーとプログラムの責任者は、私たちが必要とするすべての情報

と、トレーニングの教則本を提供してくれました。トレーニングの教則本には、南オーストラリア議会の詳細な歴史、2018 年の州議会議員のメンバーと、その選挙区名から構成されていました。この教則本は、法令の見本と、どのように法令を作成するのか、その他有益な、議会での実習期間の心得が含まれていました。



州議会議長の許しを得て下院議長の椅子に座ってカメラに向かってポーズをとるザイナブ・ジミー。彼女の側に立っているのは彼女の助言者のラッセル・ジョーンズ

参加者は 15 才から 25 歳で、地元出身者の他に、高校生や大学生もいました。

どのようにして参加者が一つのチームとなったのでしょうか?

タスクフォースのメンバーとその組織の責任者の説明では、85 名の全参加者は、広範な議論を喚起するために、11 のチームに分けられました。参加者は、15 才から 25 歳で、地元出身者の他に、高校生や大学生もいました。参加者は、チームを文化的に多様化するために民族性に基づいてチームに振り分けられました。

私は、チーム 7 に振り分けられました。チームの名前は、チームのメンバーがコーラスグループの ABBA が大好きだったので「デイスカウト ABBA」と名付けられました。私たちのチームには 8 人のメンバーがいて、その内 3 人はアデレード地区外からの参加者でした。何人かは高校生で、他の 4 人は、大

学生でした。私たちのチームの助言者は、2018年のユースガバナーでした。

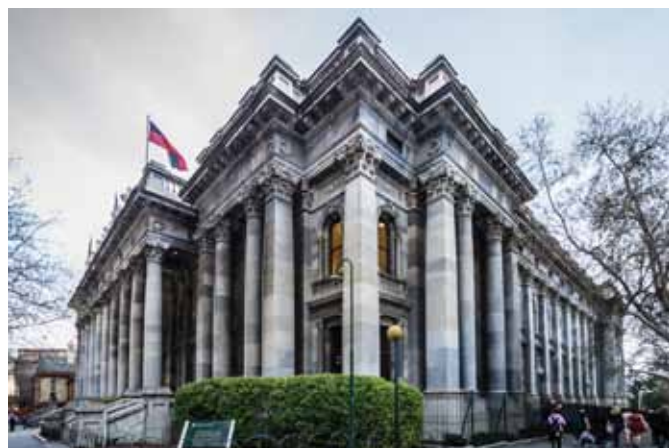
私はどんな法案を作成しようとしたのでしょうか？

私たちは、情熱を燃やして法案を作成すべく、3つの課題を選びました。それらの3つの課題は、持続可能な環境、透明性のある給与制度および文化多様主義でした。タスクフォースは、透明性のある給与制度に焦点を絞る事を選びました。何故なら透明性のある給与制度は、ユニークなトピックスで、他のチームの法案とは異なるからです。私たちの法案は、とりわけ男女間の賃金格差の縮小を通じて、給与制度の透明性の拡充、社会の企業への信用を拡大する事に繋がることを目指しました。これは、各企業の従業員の年間給与が社会に知られることによって、達成されることです。これは、各従業員が彼らの給与について他の従業員を含む、誰とでも制裁を受ける恐れなしに話し合い、給与を公開する事を可能にするはずで

青年会議は、安全と特権を私たちに与え、私たちが自信をもって自身の意見を発する事の出来る環境を提供してくれました。私は、南オーストラリアの様々な課題および課題を克服するためにはどのような法案を若いリーダーとして策定すべきかを学ぶことができたことを気に入りました。

議論への私の貢献と法令のもたらすもの

週を通じて、私達は議会で過ごし、沢山の議論を行いました。議論の初日、議論の中で、私は、他の参加者の様子を見守り、黙って静かにしていました。私は、全くの新人で、彼らは、私よりはるかに青年会議での経験を積んでおり、私は、彼らから大変に感銘を受け、時間をかけて彼らから学べるだけ学びました。最後の幾つかの論議の中で、私は、政府の閣僚の一員として、温室ガス効果防止法について論議に挑みまし、私の演説の前日に議会での経験を積むため、上院の全体委



会議が開かれた南オーストラリア州議会の建物

員会で、女性に、避妊の機会を与える法案の質問にも立ちました。私の最大の論議への貢献は、下院で私のチームの主任弁護人になることを申し出たことです。私の仕事は、反対党が提出した、「投票年齢の若年化と選挙権者を増やすための法律」に反対する事でした。私が演説を終えた時、私自身を誇らしく思い、また、多くの方が褒めてくれました。私が他の論議に加わるにつれて、自信をさらに高め、また、この経験を楽しむことが出来ました。

私は、自分たちの給与の透明性を高める法案を木曜日の朝に提出し、私のチームは、下院で、いたずらをたくらむことを決めました。私たちは、私たちのチーム「デイスカウントABBA」が作曲した一節を歌いました。それは、楽しいひとときでした。

何が私にとってのハイライトだったのでしょうか？

私が青年会議で一番好きな部分は、各法案についての論議でした。私は、自身が法案につき論議する事とともに、同僚の青年議員の情熱的な論議を見守る事が好きでした。私は、今まで、論議をした事がなかったので、とても新しく、爽快な経験でした。青年会議は、安全と特権を私たちに与え、私たちが自信をもって自身の意見を発する事の出来る環境を提供してくれました。私は、南オーストラリアの様々な課題および課題を克服するためにはどのような法案を若いリーダーとして策定すべきかを学ぶことができたことを気に入りました。私は議会の反対党に属する事よりも、政府の側に属する事が好きでした。

青年議会に参加したことは、私の将来に役に立つのでしょうか？

今年青年会議に参加できたことは、私にとって、ただ単に忘れられない経験だけではなく、大変役に立つ経験でした。私は、いくつもの新しいスキル、例えば、真心を込めて演説の草稿を仕上げ、また、力強く発表する事を同様に取得しましたし、どのように議会制度が機能し、議会運営のための諸手続きが行われている事を、直接に得る事が出来ました。青年議会は評判が高く、社会的に敬意が払われているプログラムなので、私はこの1週間の青年議会へ参加したことを、私の履歴書に記載する事が出来ました。私は、青年議会が、現在大学で学んでいる法律学の学位の取得において、将来、何ができるかの方向性を示してくれるのではないかと思います。私の人生の転換点に直面し、私がいつも行いたいと思っている、コミュニティーに変化をもたらすことのために、真剣に将来、議員に立候補する事を考えています。私は心からラッセル・ジョーンズさんと彼のワイズメンズクラブに感謝いたします。同様に、他のスポンサーに対し、このプログラムを最大限活用できるよう応援し、機会を与えてくれたこととその寛容さに感謝します。

エストニア:4 ヶ国の 100 周年をチャリティーコンサートで祝う

100 年前の 1917 ~ 18 年にかけての 12 か月間に、フィンランド、エストニア、ラトビア、リトアニアの近代国家の創立が行われたことを記念するチャリティーコンサートがエストニアのペルヌで開催されました。(フィンランドは 1917 年 11 月 6 日、エストニアは 1918 年 2 月 24 日、リトアニアは 1918 年 2 月 16 日、ラトビアは 1918 年 11 月 18 日がそれぞれの独立記念日です)。

フィンランド バルト区次期区理事のカルロ・セルグは、主催者として、これら 4 か国の市民の中から出演者を選考することになり、そのプログラム内容を吟味することはチャレンジであり、プログラムは彼らが選ばなければならなかった出演者に大いに影響されたと述べました。コンサートはラエキュラオールスクール・センターの若手ミュージシャン、マリ・ルイス・ホルムの自らのギター伴奏の歌で始まりました。

次は、5 歳からピアノを弾いている 12 歳のピアニスト、ラスラン・アンドリュウヴでした。ラエキュラ・オール・スクール・センターのコンサートホールでの演奏は、この若者にとってエストニアでの初めて演奏でした。彼はラトビア北部のエストニア国境にやや近いステイトセレに住んでいて、ラトビアのクラシック音楽コンクールで優れた演奏を披露し、このコンサートで、今やエストニアでも一躍有名になりました。

カトリン・ヒリダネン・アルベラとピク・オルボッキは、パーヌ・イングリアン系フィンランド人協会の青少年コンサートプログラムを代表しました。彼らはツイターという楽器を演奏し、民謡を歌い踊りました。リトアニア人のジタ・グデレビエテは約 10 年間ペルヌに住んでいて、エストニア語を話すことが出来ますが、今回は原語でリトアニアの詩を採り入れるよう



4 か国のミュージシャンがチャリティーコンサートに出演

求められました。彼女は流暢な言葉と独唱で観客を楽しませました。ヘルシンキに住むワイズメン達は彼らの母国語のスウェーデン語で歌いました。

コンサートへの入場料は無料でしたが、参加者すべてが自発的に慈善くじチケットを購入したので、幸運な賞を手にする人が何人かありました。チャリティーくじに用いられた賞品は、人々の好意的な善意によって寄付されました。このくじで集められたお金は、ラエキュラオールスクール・センターでレクリエーション活動を推進する費用に使われます。

Urmas Saard (英語翻訳: Ester Haas)

出典: ヨーロッパ地域のウェブサイト

アメリカ: 奉仕活動がすべてなのです

小規模で年齢を重ねたクラブですが、モンタナ州グレートフォールズのグレートフォールズワイズメンズクラブは、何年も前に YMCA がなくなったにもかかわらず奉仕活動を行っています。ハロルド・スピルデ(右の写真)と一握りの男性達はできる限り最高のものを地域に提供するために一生懸命働いています。

クラブバナーは、彼らの努力の象徴であり、歴史ある活動を歩んで来た多くの業績を示しています、その貴重なバナーを区大会に持ち込んで自分たちの活動を誇っています。例えば、彼らは地元の YMCA を支援できないので、別の都市、ヘレナにある YMCA のキャンプを手伝ったり、地元のユースのホッケーとサッカーチームのボーイズ&

ガールズクラブに援助をしたりしています。危機に直面している家庭に「魚の緊急食料プログラム」と呼ばれる食べ物を提供する事業もその中に含まれています。多くのクラブ会員は、セント・アンズ・スーパークitchenで貧しい人々やホームレスの人々に食事を提供しています。野菜を洗い、調理し、配布しています。

グレートフォールズワイズメンズクラブの地域への献身に感謝します。

US エリア元会長
デビー・レドモンド



ノルウェー:「奇跡」と呼ばれる 123 人の会員を有するクラブ

マンダルは 15,000 人の人口を持つノルウェーの最南端の町です。地元のルーテル教会は高い評判を持ち、多くの熱心なクリスチャンクラブや組織があります。

その中に、2014 年 3 月にチャーターされたマンダルワイズメンズクラブがあります。2018 年 11 月現在、クラブには 123 人の会員が所属しており、この予想外の異常な発展で、クラブは「奇跡」と呼ばれてきました。

クラブ例会は、改装された古い納屋で開催され、平均して 70 人の会員が定期的に出席しています。例会は、様々なトピックスをカバーした興味深い卓話、夕食、歌、お祈りからなる伝統的なワイズのやり方で行われます。新会員の歓迎方法は、伝統的で格式ばった「ワイズメン方式」ではありません。クラブの運営は、ワイズの決められたしきたりを越えて、インフォーマルな方法を見つけようとしています。その目的は、クラブのイベントに参加するすべての人が快適に過ごし、次回も参加したいという気持ちにさせることです。クラブは誰にでも開放されていますが、明確なクリスチャンの背景を持っています。

クラブはどのように設立されたのでしょうか?退職したワイズカップルが、スタヴァンゲルで 35 年間暮らした後、マンダルに戻ってきて、何人かの友人と、彼らは全員約 50 年前のマンダル YMCA ユースクラブのメンバーでしたが、ワイ



遠足でのメンバー

ズメンズクラブを設立することを話し合いました。彼らは 15 人の友人を個人宅の集会に招待し、自分たちが所属していた YMCA 社会を再設立したいという思いを提案しました。その理想は、大きな熱意に盛り上がり、人々の参加を増やしてゆきました。

すべてのメンバーは、個人的な直接の招待で勧誘されました。そして、まだ募集中とのことです。

ノルウェー区理事 ビヨン・アルヴェ・ベンステン

クリスマスツリーの販売でコミュニティサービスを支援

ベンディゴからハワイ、カリフォルニア、ミネソタそして各地からクリスマスツリーの季節の報告です。素晴らしい募金活動です。北アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアの多くのクラブは、クリスマスツリーを販売して地域奉仕の資金を集めています。以下に示すのは、USA 地域とオーストラリア区での例です。

USA: ノース・コースト Y サービスクラブ

軍関連の施設を支援するために、11 月にエンシニータス・



ストリートフェアを開催しました。クリスマスプレゼントに相応しい物、コルクの装飾品、リース、松ぼっくりの火のスターター、カクテルグラス、ジュエリーなどが販売されました。つまり、皆が欲しい何かがそこにあったわけです。

出典:FB ページ

USA: イリノイ州のナズ野球団(ナザレス・アカデミー野球団)は、ワイズメンズクラブが 1,700

本のクリスマスツリーを降ろすのを手伝うことによって、2019 年シーズンのテーマ「ペイ・イット・フワード」を続けました。ワイズメンズクラブは、困っている地元の慈善団体に 45,000 ドルを越える寄付をしています。出典:https://twitter.com/baseball_naz



USA: 今年の 11 月下旬に、ヒロワイズメンズ&ウイメンズクラブの第 69 回クリスマスツリーセールが VIP 予約販売で始まりました。



オーストラリア ベンディゴ

台湾:いくつかの地域奉仕プロジェクト

ユースのための3対3バスケットボールトーナメント

台南 YMCA と台南ワイズメンズクラブは、協働して若者に運動の習慣をつけ、若者を薬物から排除するため「アンチドラッグ3対3バスケットボールトーナメント」を、毎年11月に行っています。この試合は大変人気があり、参加者は毎年増加しています。今年は、500名を超える高校生が参加しました。



バスケットボールコートで薬物無しで

ジェン・ジェイ・チェン台南 YMCA 総主事、ジャー・ホン・ツァイ台湾区理事は開会式で、若者の参加を大いに歓迎しました。多くのワイズメン、ワイズメネットが参加し、選手を激励しました。大変楽しい集いで、一日中大賑わいでした。会場には、台湾の薬物防止健康センターのブースが設けられ、薬物の危険を訴え、この運動の理解増進に役立ちました。

高齢者を大切に

10月初め、台湾では高齢者を敬い、感謝する集い「シニア一市民祭り」が開かれました。南台湾部では10月6日、カオシュン(高雄)の山岳地帯の高齢者とその家族を招待して、盛大な宴会が持たれました。カオシュンポートワイズメンズクラブ



約50テーブルの500名の祝宴



クラブ会長がお客をもてなす先頭に立って

ブが中心になって、この集いを組織し、カオシュン、ピンタン(屏東)、台南およびピンタン南山の各クラブならびに南台湾ユースクラブと台南 YMCA が共同スポンサーを務めました。

50のテーブルに500名の招待者を着席させるのは大変な作業でした。30名のボランティアのクックさんが各テーブルに10皿からなる美味しい食事を提供しました。調理器具、食器、テーブルを始め、あらゆる機材が市街から運びこまれました。およそ1万米ドルの費用が掛かりましたが、ワイズと関係業者が負担しました。ワイズメン70家族も参加しました。すべてが、私たちにとって初めての経験でした。

献血運動



献血者を待つ運営スタッフ

ピンタン、台中グレートビジョン(大業)の各クラブと台湾中央部が地域奉仕活動の一貫として献血運動を行いました。ワイズの家族だけでなく、景品としてTシャツ、お米、お茶などを提供し、地元の人々にも寄付を呼びかけました。最終的に、各々のクラブ、部は1,300-1,500ユニット(1ユニットは250ccに相当)の献血を集めました。

チューアイ・アンナ・チェン カオシュンポートクラブ

タイ:グリーンファンドが炭素排出減少を助ける

地球温暖化と気候変動は、もはや社会全体で取り組んで行動すべき問題です。タイ・チェンマイにあるサオ・ヒン YMCA は、地球環境と気候変動の問題に継続的に取り組む教育プログラムを持っています。ワイズメンズクラブ国際協会 (YMI) の良い協力、支援を得て、特に YMI グリーンチーム委員長のコリン・ランビーによる排出炭素の計量方法の技術面の支援により、サオ・ヒン YMCA は、まさに緑化推進をする「グリーン YMCA」に変わる途上にあります。



ワークショップでの電力削減のデモ

2018 年に YMI のグリーンファンドがサオ・ヒン YMCA の LED 電球使用促進のための「照明改善プロジェクト」の支援を決めました。地元の先生、学生、村人に現在地球の気候がどのように変動しており、そのための節電、炭素ガスの削減



LED 電球を喜ぶ村人たち

LED 電球が、従来の蛍光灯から替えるために 45 の家族に配られました。村人は、電気を節約するために、電気を使用しない時は常にスイッチを切り、電気コードを抜いておくことを約束しました。村人たちは、このようにして少しでも地球温暖化の抑制、そして、炭素排出の削減への協力できることを誇りにしています。

パトチャリン・アヴィハン
チェンマイ YMCA

YMI によるグリーンファンド支援

コリン・ランビー YMI グリーンチーム委員長から皆さまへのメッセージ:

地域のコミュニティで LED 電球に切り替えることが、ワイズメンズクラブや YMCA ができることの例です。

そのためのプロジェクトの補助金の申請を歓迎します。期限は 2019 年 3 月です。

詳しくは、www.ysmean.org/environment を参照ください。

緑の心を持ち緑の生活を過ごす様に奮起してください!

ホンコン:学生によるタイへの奉仕の旅



左、5 月の資金集め運動 右、タイ北部の村で、子どもたちと共に

2018 年 5 月、香港の PolyU の大学 YMCA の学生たちが香港ソールズベリー YMCA で 6 月初旬のタイ北部への奉仕旅行実現のための資金集め運動を行いました。彼らは、学生主体の組織で、年間を通して、迷子の動物や、少数民族の人たちへの支援を含めた幾つかの活動に従事しています。

タイへの 5 日間の訪問では、村でホームステイを行い、教育

プログラムや、建設作業に従事しました。集められた資金は、現地でのスポーツ器具、文房具、その他の村の子供たちの必要品のために使用されました。チム・シャ・ツイワイズメンズクラブは、PolyU の大学 YMCA によって組織されたタイ北部への奉仕旅行に参加した 25 名の学生に 1,000 香港ドル (126 スイスフラン) ずつを寄付しました。

アンディー・フー アジア太平洋地域 PR 事業主任

カナダ：大義のためにペダルを踏む 「強い子ども」プログラムの支援

フレデリクトン YMCA の最初の年間行事である「ペダルを踏もう」が 10 月に開催され大成功を収めたことで「強い子どもキャンペーン」のために 1 万カナダドル以上の資金を集めました。「ペダルを踏もう」を 2018 年の YMCA 最大の募金活動の一つにするために 20 社の協賛企業、150 台のペダルこぎ健康器具とニューブランズウィック首都区から集まった 25 名のボランティアがチームを編成しました。フレデリクトンのエプシロン Y サービスクラブは、「強い子どもキャンペーン」の支援団体であり、共同主催団体の一つでした。



笑顔で子ども達の支援のためにペダルを踏む

「YMCA 強い子どもキャンペーン」は、子ども、成人、高齢者がより健康で幸せな生活を送るのに必要な機会を与えるために極めて必要となる資金集めに焦点を当てている年間募金活動です。「強い子どもキャンペーン」は、会員であることやキャンプ奨学金の支援を通じて助けを必要としている人達が、YMCA を利用できるようにするキャンペーンです。つまり、家族に健康・フィットネス会員になってもらうことによって活動的

になれる場所を提供する事を意味しています。子ども達が水泳を学ぶ手助けをおこない、彼らに YMCA 日帰りキャンプの素晴らしさを経験する機会を提供する事です。

「エプシロン Y サービスクラブは、私たちの区に属する家族のためのプログラムや活動を立案、実行に移す上で、フレデリクトン YMCA と協働し、支援するという長い歴史があります。」とクラブの YMCA リエゾン委員会委員長は、述べています。「私たちは、その他の素晴らしい地域の組織も支援していますが、私たちの最優先事項と取り組みは、引き続き地元の YMCA の人達と密接に協働していく事です。」

エプシロン Y サービスクラブには、60 名以上の会員がおり、「強い子どもキャンペーン」に資金援助をしています。会員自身も献金を行い、YMCA の年間恒例行事である強い子ども昼食会に参加する献金寄付者のために食べ物を準備し、提供しています。

エプシロン Y サービスクラブの主要な募金活動には、ニューブランズウィック州フレデリクトン市グラント・ハーヴィー・アリーナの食堂とバーや 1982 年に初めて行われたフレデリクトン・ホーム・ショーの運営が含まれます。これらの活動やその他の活動で得られた資金で YMCA のプログラムや活動を支援しており、その他多くの地域の組織やプロジェクトだけでなく、3 つの地元の高等学校の卒業生に優秀学生年次奨学金に寄付をしています。エプシロン Y サービスクラブは、1947 年のチャーター以来、様々な地域プロジェクトに 100 万ドル以上の募金を集め、分配提供して来ました。

ビル・アーウィン

(カナダ・カリブ海諸国地域 YMI ワールド副編集長)

ロシア：「レイディーバード (テントウムシ)」以外に 「レイディーキャベツ (キャベツ婦人)」がいる

10 月に市の老人クラブで特別なパーティーを開催するために「キャベツ婦人」がロシアのバレンツ区キロフスク市に登場しました。会場では、伝統的なロシアの野菜であるキャベツを使ったパンケーキ、あばら骨付厚切り肉、パイとスープなどの料理を作り、「キャベツ」の歌を歌い、自分達だけでなく参加者全員を喜ばせました!

この行事は、キビーニエツクワイズメンズクラブによって計画・実施されました。キャベツ婦人達は、「春」と呼ばれている市の年金生活者クラブの一員となりました。「春」は、2 年前に設立され、高齢者の創造的活動を創出する事を目標としています。キビーニエツククラブは歴史の浅いクラブですが、慈善バザーの開催、入院中の高齢者に配布するための

古着回収、古本交換、リサイクルのための古い乾電池回収などの活動を継続的に実施しています。

ロシア、元理事マリナ・マクログヴァ



ロシアのキャベツ婦人達



魂の真言

マックス・エディガー *

神様が私に向かって叫んだ

「私は、飢えている全ての子ども達の代わりに神様に向かって叫びました、そしてその後私は悟ったのです、飢えている全ての子ども達が、私に向かって叫んでいる神様であることを。」
発言者不詳

ニュースを見て、世界が子ども達をどのように扱っているかを目の当たりにして、心が張り裂けそうな気持ちが続いています。パレスチナ、イエメン、その他の多くの国々では、大人達が始めた戦争や、子ども達の生活必需品の多くを奪っている政策の結果、子ども達は苦しみ、亡くなっています。

アメリカ合衆国で移民の子ども達は、国境で親から引き離され檻に入れられています。私は、その子ども達が泣き叫ぶ姿を見て眠れなくなり身震いしました。いったいどうして私たちは、「キリスト教を信仰する」国民として人々、特に子ども達をそのように扱う事ができるのでしょうか?それでも、アメリカの多くのキリスト教徒や政府の役人がこの措置を支援し、ビザなしでアメリカに入国しようと決めた親にその責任があると考えているのです。彼らは、その措置はアメリカから違法移民を締め出す抑止策であると言っています。責任を子ども達の親に転嫁するのが、まるで安全策であるかのように。そうすれば、自身が取った行動とそれが生み出す苦しみの責任を取らなくても良いからです。しかしそれは、あまりにも容易過ぎる考えです。私たちは、常に出来事に対処する複数の選択肢を持っており、その結果が戦争であれ、子ども達を親から隔離する事であれ、最終的に私たちは自らが選んだ選択肢の責任を全面的に負っているのです。責任を他者に転嫁しようとするのは止めましょう。移民の子ども達の苦しみは、私たちによって引き起こされたのです。なぜなら戦争を行い、子ども達を親から引き離し、「刑務所」に入れることによって、移民の入国問題に対処する事を私たちが選択したからです。確かに現在、子ども達を親と引き合わせようとする試みがなされていますが、何人かは永遠に引き離される事になるかもしれません。そもそも合衆国政府が、そのような措置を取る決断をした事実が私たちの思いに反する判断なのです。

私たちが認識しなければならないのは、アメリカに違法入国したり、亡命を希望したりする人には皆それなりの事情があるという事です。もしも私たちがその事情を知っているなら、はるかに慈愛あふれる方法で対処する事でしょう。私は人生の大半を難民、違法移民、亡命希望者の人達と共に活動して来ました。彼らが置かれた事情に耳を傾けて来ました。彼らと共に涙を流して来ました。彼らの多くが経験している絶望と怒りを私も感じて来ました。そして神様に尋ねたのです。「なぜ、なぜあなたはこの苦しみを放置されるのですか?なぜあなたは、これらの『最も小さき者達』の声をお聞きにならないのですか?」

と。そして神様は、いつもこのように答えられるように思えます。「彼らの叫びは、私の叫びである。彼らの事情は私の事情である。なぜ私の民は、彼らの叫びを聞いて慈愛を持って応えないのか?」

マタイによる福音書第19章14節でイエスは、言われました「子ども達を来させなさい。私のところに来るのを妨げてはならない。」イエスは、「親達がしている事が気に入らないなら子ども達を苦しめなさい。」とは言われませんでした。

私たちは、キリスト教徒としてイエスの教えを、身をもって世界に示す責任を負っています。私たちの行いは、他者に注視されていますが、他者が見ているものが常に、慈愛溢れた愛の信仰としてのキリスト教を反映していないことを覚えておいて欲しいのです。「私たちは、神を信じている」と心の中で確信しているだけで、キリスト教を信仰する国民になれる訳ではありません。私たちの行為、とりわけ苦しみに対する私たちの対応が、私たちの真の姿を世界に伝えているのです。

しかし、混乱と非情さの真ただ中にあっても、信仰心を持つ人達による深い愛と慈愛あふれる対応もあるのです。ただ、それらの行為についてはあまり報道されていないので、残念ながら世界中の人達は、それらの行為について常に知っているわけではありません。彼らは個人、教会、地域社会単位で、子ども達の叫びを神の叫びとして聞いて、行動しているのです。私たちは、それらの深い愛と慈愛溢れる行為について喧伝しなければなりませんし、自らももっと行動しなければなりませんし、行動できるのです。

*マックス エディガーは、カンボジアで設立された「平和の学校」の運営責任者です。www.mennolink.org/peace アメリカ合衆国メノナイト教会 平和・正義支援ネットワーク・ネット出版、ピースサインズの許可を得て転載。



Y's Men International
Y Service Clubs International
YMI WORLD

"To acknowledge the duty that accompanies every right" Only for private distribution to members

クラブの指導的立場にあるメンバーは、実施した活動に関する記事を1枚以上の高解像度の写真と適切な短い説明文を付けて国際本部に送られることをお勧めします。記事は、150語(英語)以内でお願いします。読者の皆さんもグローバルな我々の運動に関する関心事について、ご意見や原稿をお寄せ下さい。

記事と写真を www.ysmen.org/ymiworl にお送り下さい。次号掲載記事の提出締切日:2019年2月28日

Y'S MEN INTERNATIONAL IS AN ACTIVE GROUP OF MEN AND WOMEN DEDICATED TO
SERVING THE COMMUNITY



AND WE HAVE FUN
DOING IT!

ワイズメンズクラブ国際協会は地域に奉仕することにひたむきな男女による活発なグループです。
そして私たちは楽しみながらそれを行っています。

参加し、成長するチャンスです。

個人として

社会的、組織的およびコミュニケーションのスキルの成長
個人的なスキルをクラブのプロジェクト、活動に貢献させる
個人的なアイデアや考え方を実行に移す
国際協会内の交友を楽しむ

地域では

地域社会の若者のための人材と資源を提供する
地域の他の奉仕団体との相互支援体制を構築する
YMCA のプログラムの組織化、実施を支援する

国際的に

学び、他の人々と共有することで、国際的な理解と平和のために働く
学生が海外に訪問することを、ホームステイを提供することにより可能とする
国際プロジェクトの募金活動に参加する
「全人類のためより良き世界を築く」ために励まし、リーダーシップを育てる

さあ、一緒に



For further details: www.ysmen.org